

行政視察報告書

令和6年5月8日（水）～10日（金）

社民党土浦

平岡房子

- 1 テーマ ユネスコジオパーク隠岐について
- 2 視察日時 令和6年5月8日（水）～10日（金）
- 3 視察地 島根県隠岐郡隠岐の島町、海士町、西ノ島町
- 4 目的 ・ユネスコジオパークに認定されている隠岐について、「大地の成り立ち」、その大地の上に育まれた「独自の生態系」、今日まで受け継がれてきた「人の営み」をひとつのまとまりとして見学し、学び、筑波山地域ジオパークの認定更新にむけた取り組みの参考にする。
- 5 内容 ・隠岐3島の視察
- 6 視察の概要

(1) 5月8日（水）

<隠岐の島町内視察>

- ①隠岐自然館……隠岐ジオパークについての概要説明



隠岐の島自然館

- ②玉若酢命神社……隠岐の総社、樹齢二千年の八百杉、隠岐造り神社本殿、地形と神社の位置



玉若酢神社の山門



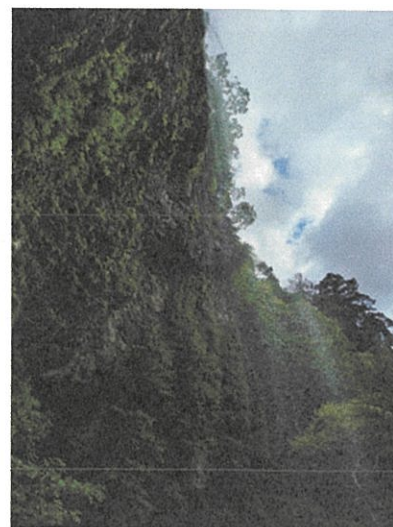
八百杉

- ③壇鏡の滝……日本の滝百選、日本名水百選、巨岩信仰
壇鏡の滝を裏側から見る



- ④那久岬……明治時代と現在の灯台、島前と島後の違い

灯台付近で
放牧されている牛



⑤都万海岸……イカ寄せの浜、舟小屋と日本海の特徴

日本海は、波が静かなので、木造船の船体にフナムシがくっつきやすいため、舟の避難所として、多くの場所に船小屋が作られている。

船小屋



(2) 5月9日(木)
<海士町内視察>

⑥ホテルEnto……ジオパークの理念を取り入れたホテル



ホテルEnto

⑦隠岐神社、後鳥羽院御火葬塚
……後鳥羽上皇を祀る神社



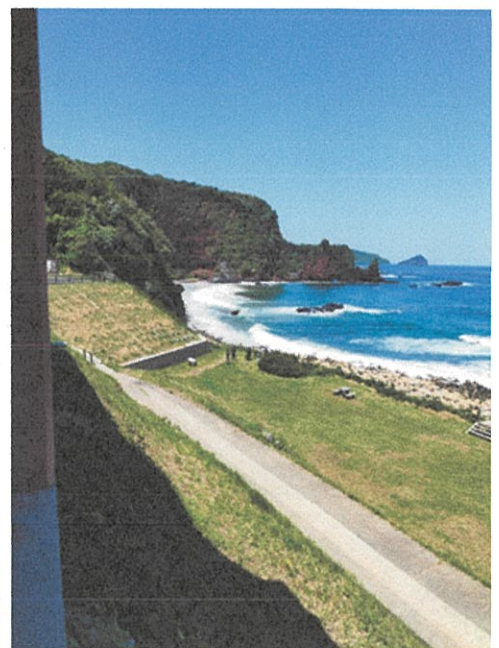
後鳥羽院御火葬塚

⑧明屋海岸……大地の成り立ちと神話の関係

明屋海岸
真っ赤な岩肌が見える

<西之島町内視察>

⑨赤尾展望台……国賀海岸を望む風景
サイト看板の作成について



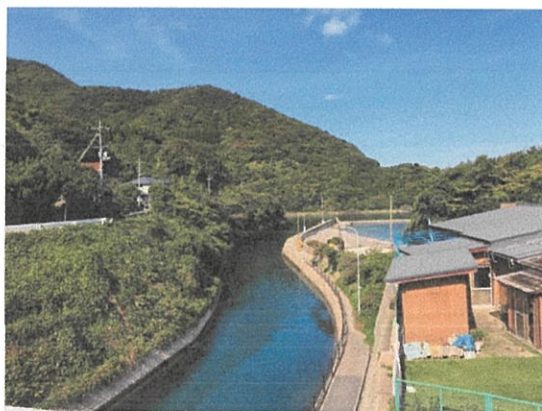
赤尾展望台
通天橋を望む

- ⑩国賀海岸 摩天崖……隠岐を代表する海岸風景
海水面の上昇と浸食について

- ⑪国賀海岸
通天橋……
波の浸食によって
創り出された風景



- ⑫由良比女神社……島前一宮
自然現象と信仰のはじまり
由良比女神社前の海に建てられた鳥居
かつてこの海には大量のいか押し寄せたという



- ⑬船引運河……大正時代に作られた運河、
地形と人の暮らしとの関係

- ⑭後醍醐天皇黒木御所跡……後醍醐天皇が隠岐に流され幽閉されていた場所後に脱出した

(3) 5月10日(金)
 <隠岐の島町内視察>

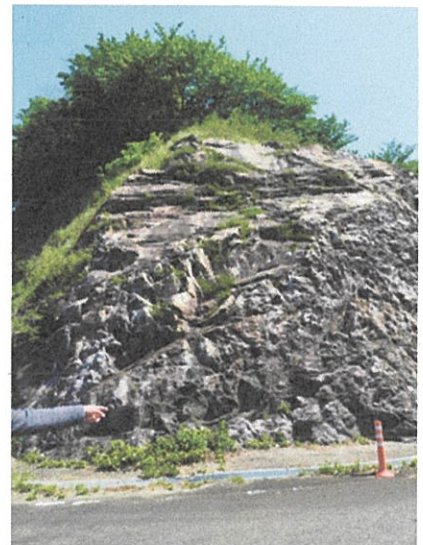
- ⑭水若酢神社……隠岐一宮、
 隠岐古典相撲、
 古墳と神社の関係、
 黒曜石を運んだ
 丸木舟



水若酢神社の社殿



本土まで行く実験の
 為に作られた
 丸木舟



- ⑮銚子ダム……隠岐片麻岩露頭
 片麻岩が露出している

7 質疑応答

質問(1) ジオパークを推進するに当たっては、ガイドの果たす役割も重要であると思う。ユネスコ認定のジオパークでは、ガイドとしての資質も高いものを要求される。その養成について伺う。

回答 隠岐ユネスコ世界ジオパークの満足度向上にはジオガイドの養成は不可欠です。マイスターガイド5名、1級ガイド10名、2級ガイド20名の養成を目標として、ガイド養成に取り組みました。

隠岐ユネスコ世界ジオパークについて基礎的な知識を有し、旅行者にわかりやすく楽しく伝えることができることが重要で、知識習得だけではなく、実際のフィールドに出て実践を通じて養成に当たりました。

さらに、子どもたちを含む「ジオサポーター制度」を創設し、学校や地域でのジオパーク講座を通じて知識と体験を得た上で、おもてなしができる「隠岐人」＝ジオパークサポーターの養成にも取り組みました。

質問(2) 今ある素晴らしい資源の維持には、将来関わってくる人材の育成が欠かせない。各段階における教育の中で、どのように行っているのか、その成果はどのような形で出ているかについて伺う。

回答 将来の隠岐地域を担う子どもたちには、ジオパークを通じて、隠岐地域への愛着と誇りを育んでいくことが重要です。隠岐地域では、高校進学時から親元を離れる子どもたちがいます。また、高校卒業後の進学や就職でも多くの子どもたちが隠岐を離れて行き、島外、県外へと移住しているのが現状です。

子どもたちが、一度は隠岐を離れでもまた帰りたくなるような教育を実施していくことが、より重要であると考えます。

隠岐高校や隠岐島前高校では既に、この視点からのプログラムに取り組んでいます。

小中高校においてジオパーク学習がスムーズに実施されるよう、教員を対象としたジオパーク研修会の開催や教材となりうるジオパークの情報を提供するとともに、新規赴任教員や新規採用教員に、ジオパーク学習の必要性やジオパークの魅力を知ってもらうことに取り組んでいます。

小学校3年生から高校生まで、発達段階に応じた資料を作成し、活動してもらっています。

そして、島前高校では島留学によって多くの子どもたちが本土から入学していますし、移住者も300人を超えています。

8 土浦市の政策に生かすには

隠岐は、小さな島であり、漁業とわずかな米作で生活が成り立っていた。それ故、若者たちの多くはこの島を去り、人口も減少していった。

しかし、そのことで、手つかずの自然が残された。これらを生かす取り組みがジオパークである。隠岐は特異な大地の成り立ちに由来する景観、地質、生物、文化、歴史のつながりを知るジオストーリーを楽しむジオパークで、日本海と日本列島形成を記録した岩石をはじめ、第四紀の環境変動の結果生み出された独自の生態系や、隠岐の自然環境に適応した文化を小さな島々の中で見ることができる。

そして何より、この隠岐を守ろうという熱い思いを持って活動に取り組む皆さんがいる。それはジオパークを守る大切な人的資源であることを、この3日間で学んだ。

ジオパークの活動には①大地の遺産を保全する。②大地の遺産を教育に役立てる。③大地の遺産を楽しむジオツーリズムを推進し、地域の経済を持続的な形で活性化するという三つの目的がある。

その目的を達成するために、土浦市が位置する筑波山地域ジオパークは何が出来るか。土浦市には、山と湖と、かつて海底であった平野と多くの人々がいる。これらを、自然遺産として残すだけでなく、観光資源として大いに活用すべきであると思う。

そのためには、運営に携わる皆さんの意識の高揚と、観光ガイドを始めとする多くのボランティアをどう育てるにかかっているように思う。これは、喫緊の課題である。

そのためには、私も頑張っていきたいと思い新たに三日間であった。